

入研協は、その設立趣旨に基づき、独自に「入学者選抜に関する調査研究」の事業を行うこととしている。設立当初、四つの共同研究プロジェクトが企画されたが、それらのうち二つについて、それぞれ56年度文部省科学研究費補助金及び55年度文部省特定研究経費の交付が認められ、共同研究活動が開始された。

このほかに、入研協の直接の事業としてではないが、入研協の活動と密接な関係を帯び、かつ私立大学関係者等の会員外研究者との協力を促進する共同研究を行うために研究プロジェクトが企画され、57年度に21世紀文化学術財団から予備研究費が認められた。

プロジェクト研究の実施状況について、述べることにする。

なお、新たな研究プロジェクトとして、57年度から「現行入学者選抜制度による入学者の特性とその教育に対する追跡調査」が企画され、具体化のための検討がなされている。

1 高校調査書・共通1次学力試験・2次試験・入学後の成績間の相関分析の方法論的研究

このプロジェクトは、肥田野会長を研究代表者として、56年度から3年継続で科研費（総合研究A、広領域）の交付を受け、25国立大学（北海道大学・室蘭工業大学・帯広畜産大学・旭川医科大学・弘前大学・岩手大学・秋田大学・山形大学・東京大学・電気通信大学・福井大学・静岡大学・名古屋大学・滋賀医科大学・

神戸大学・奈良教育大学・奈良女子大学・島根医科大学・香川大学（56年度まで）・徳島大学（57年度から）・高知大学・高知医科大学・九州大学・九州工業大学・熊本大学・大分大学）と大学入試センターが参加して進められている。

56年度には、11月に研究打合会が開かれ、竹内啓東京大学教授の講演「相関係数の前提条件と解釈について」及び研究メンバーによる研究発表5件があり、大学入学後の成績の評価方法と追跡研究の対象とする学内成績の算出方法について情報交換がなされた。

57年度には、「入試及び追跡調査における情報処理に関するアンケート調査」が実施され、11月の研究打合会でその結果の報告とそれをめぐる討論及び追跡調査に関する提案と討論があったほか、奥野忠一東京大学教授の講演「探索的データ解析について」及び研究メンバーによる研究発表3件も行われた。

2 教育制度における大学入学試験の位置づけに関する調査研究

このプロジェクトは、中島幹事を研究代表者として、55年度から5年計画で4機関が参加して開始された。

各機関の分担テーマは次のとおりである。

- (1) 国内調査研究及び米英調査研究（大学入試センター研究部担当、総括：中島直忠教授）

○国内調査研究：55年度には「一般入学者

及び推薦入学者の高校教育学習達成度に関する調査研究」を行い、その結果は大学入試センターの研究紀要№2、№3に発表された。56年度以後は、各大学の入学決定方式の24年から現在までの歴史的変化を把握するための基礎作業として、募集単位（学部・学科・課程・専攻等）ごとに入試教科科目等のデータの電算機による解析、類型の析出やその特徴の把握、変遷の原因等の考察を逐次実施の予定

○米英調査研究：米国における19世紀後期から20世紀初期までの大学システム(Undergraduate Admissions System)の変遷の文献研究、ETS・ACTなどの共通テストの性格・内容・利用法・批判についての文献及び調査による研究、英国におけるGCE制度の運用等の文献研究など

(2) 理工系大学における入学者選抜試験のあり方に関する調査研究(東京工業大学担当、総括：黒正清治教授)

○国内の大学について、理工系大学・学部から、また対照群として文科系大学・学部から、共通1次試験・第2次試験間、科目間等のウェイト比などの資料の収集及び検討

○1年次学生のアナケート調査により、東京工業大学への受験動機と同大学の特徴の関係等の調査

○外国の理工系大学入試についての調査検討

(3) 職業高校生についての大学入試の位置づけに関する調査研究(富山大学担当、総括：野村昇教授)

○職業高校生の大学進学に関する全国的資料

の分析

○職業高校生の大学進学希望と入試のあり方についてのアンケート調査

○職業高校からの国立大学進学者に対する面接調査

○職業高校の進学指導主事等に対する面接調査

○職業高校カリキュラムと共通1次試験・第2次試験の関係についての研究

(4) 世界各国における大学入学者選抜制度の比較研究(京都教育大学担当、総括：松井栄一教授)

○フランスのバカロレア、西ドイツのアビツァア、イタリアの大学入試の調査研究

○「多肢選択マークシート解答」方式と「記述解答」方式のあり方についての実験的研究

3 大学教育と入学試験に関する研究

(21世紀研究プロジェクト)

「大学教育と入学試験に関する研究(予備研究)」のテーマで、肥田野会長を研究代表者として57年6月から1年計画で開始された。メンバーには入研協の幹事・専門委員、大学入試センター研究部教員のほか、私立大学等の学長・教授等が加わっている。このテーマは、高等教育とりわけ大学教育の本質に照らして、その入試はいかに位置づけられるべきか、との基本的問題関心に基づくものである。高等教育と入試の関係、入試改革の視点及び改革過程における問題点等を整理して、入試改革に貢献する方向を見いだすための本研究の計画を策定する趣旨で、関係項目の検討、事例調査、各教育分野における入試の調査が関連づけられつつ進められている。